教育相談だより

令和７年２月２７日発行
福島県特別支援教育センター
第３４号　作成：教育相談係

「多様性」について考える

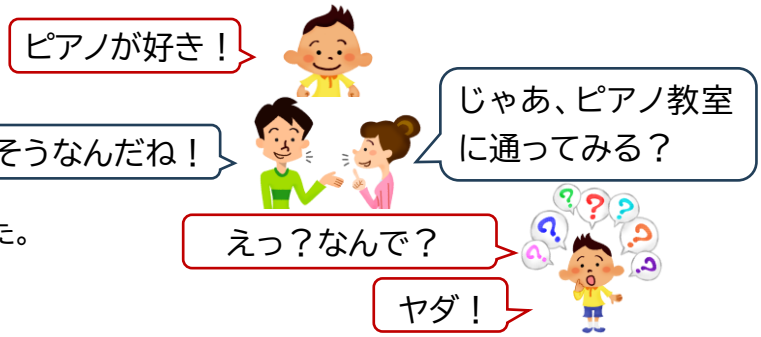
「多様性（ダイバーシティー）」と聞いて、どのようなイメージをもつでしょうか。

例えば、年齢や性別、体格、人種など、**「外面的に捉えやすい（目に見えやすい）多様性」**を思い浮かべた人が多いのではないでしょうか。

「目に見えやすい多様性」については、それぞれの違いに気付きやすいと思いますが、それだけでなく**「目には見えにくい部分」についても多様性が存在していること**をお伝えしたいと思います。

次の事例で考えてみましょう。

子どもが「ピアノが好き！」と言いました。
家族が「そうなんだね！」
「じゃあ、ピアノ教室に通ってみる？」と言いました。
「え？なんで？ヤダ！」と子どもは言いました。



実はここにも、それぞれの感じ方や捉え方等**「目に見えにくい多様性」**が存在しています。子どもの「ピアノが好き！」という言葉から、家族は「ピアノ演奏が好き」と捉え、「ピアノ教室に通ってみる？」と発信したのかもしれません。しかし、子どもの思いとは異なってました。

一体、この子ども自身はどんな理由や思いがあって「ピアノが好き」と表現したのでしょう。

もしかすると…

「フォルムがかっこいいから好き（弾かずに見ているだけでいい）」
「ただただピアノの音色が好き」
「誰かがピアノを演奏している風景が好き」
「大好きなアイドルの〇〇がピアノを好きだから私も好き」

などの理由があるかもしれません。**「好き」の理由も人それぞれです。**

「分からないけど、なんか好き」など、本人の中で理由が意識化されていない場合もあります。

上記例で、子どもにとっては「かっこいいピアノを見ているだけでいい！」という思いだったとしたら、家族の一言や対応は、本人の思いとズレてしまいますよね。**感じ方・捉え方等も皆違います。**「ピアノ演奏が好きでも習うのは嫌だ（「好き」と「習う」はまた別のもの）」との本人の捉えもあるかもしれません。聴き手の感覚で話をすすめると相手の意にそぐわない状況になってしまうことがあります。

「人は多様である」「自分と同じ感じ方や捉え方等ではないかもしれない」という意識を前提として、相手はどう思っているのか、かかわりや“対話”を通して「相手を理解しようとすること」を大事にしたいと考えます。この「多様性（感じ方や捉え方等は人それぞれ）」の意識をもつことで、自己理解、他者理解、相互理解が深まり、皆が共に豊かに生きることにつながるのではないでしょうか。